

卒業論文作成の手引き

神奈川大学・工学部・物質生命化学科

1. 一般的事項

1.1 *2016年度の卒論提出、発表に関する日程は次の通りである。

卒業論文提出：2017年2月6日(月) 12:00～13:00, 提出先：23-807-1(学科会議室) 注1~3)

卒業研究発表会：2017年2月15日(水)、16日(木)、17日(金)

- 注1) 卒業論文は、研究室ごとに一括して、代表者1名が提出すること。
- 注2) 卒論タイトルを各研究室で学籍番号順にまとめ、配布したExcelファイルに記入の上、1月19日(木)までに小野(akiraono@kanagawa-u.ac.jp)宛に電子メールで送信すること。
- 注3) 予稿原稿(PDFファイル)を各研究室でまとめて小野(akiraono@kanagawa-u.ac.jp)宛に電子メールで送信すること。締め切り1月26日(木)15時

1.2 用紙

A4判の用紙を用いること。なお穴あけ綴じファイルや糊付けなどを用いて、用紙の左側を確実に綴じ落丁しないように論文を製本すること。

1.3 執筆上の注意点

- ☆ 製本の必要上、用紙の左側に3cm、右側に1cm程度の余白を取ること。
- ☆ 読みやすさに配慮し、文字(フォント)の種類やサイズ、および文章の行間を設定すること。Microsoft Word(Windows)における標準的な設定例は以下の通り。
 - フォント：MS明朝(日本語)およびTimes New Roman(英語)
 - フォントサイズ：11ないし12pt
 - 行間：1.5～2行(以上はあくまで一例であり、OSや使用ソフトによっても使用可能なフォントなどが異なる。書式設定の詳細については各研究室の指示に従うこと。)
- ☆ 必ずページ番号を付けること。
- ☆ 研究室で指定のファイルを用いて綴じ込むこと。
- ☆ 卒業論文は研究室の財産であり、後輩の参考となる大変重要な研究記録である。正確かつ詳細に執筆すること。

2. 卒論の構成

以下に最低限の必要事項を示す。これらを満たしていないものは論文として不完全である。

- (a) 表紙 提出年度、題目、学籍番号、氏名、研究室(ファイル表面に貼り付ける)
- (b) 背表紙 氏名、研究室名(ファイルの背に貼り付ける)
- (c) 本編表紙 提出年度、指導教員名、提出年月日、題目、学籍番号、氏名(平仮名でふりがなを付けること)、研究室名
- (d) 目次
- (e) 序論(緒言) これが第1章になる
- (f) これ以降は、実験(方法)、結果、議論(考察)、結論、引用文献、謝辞と続く。「結果」と「議論(考察)」はまとめて「結果と議論(結果と考察)」としても良い。

(g) 詳細は各研究室の指示に従うこと。

3. 引用文献の書き方

本文中の該当する箇所に¹⁾または[1]のように通し番号をふり、最後に文献をまとめて書く。書き方の例を示す。詳細は各研究室の指示に従うこと。

(例)

本文「・・・2次元 NMR を行う SASS 法¹⁾と呼ぶ方法が開発されたが、最近、1次元 NMR 法を用いて同じことが短時間でできることが報告されている²⁾。また、・・・」

文献 1) S. Konaka, T. Itoh, and Y. Morino, *Bull. Chem. Soc. Jpn.*, **39**, 1146 (1966).

2) 藤田静雄、佐々木昭夫、応用物理、**54**, 1250 (1958).

3) E. A. Evans, “*Tritium and Its Compounds*,” Butterworth & Co., London (1966) p122.

4. 図表について

☆ 図、表には各章の中で出てくる順番により、図 1-6 や表 2-5 のよう番号を付け、図と表の番号は別々にすること。番号の後に続けて表題を記すこと。図の表題はずの下に、表の表題は表の上に付けること。

☆ 図表、写真等を糊付けするときは、はがれないようにしっかり糊付けすること。スティック糊ははがれやすいので用いないこと。

☆ その他グラフの書き方は、「物質生命化学基礎実験・物質生命化学実験」のテキストを参考にすること。

以上